

地域ぐるみの獣害対策を実行！！

～住民による追払いや捕獲により獣害が減った～

〔地域の概要及び獣害の状況〕

伊勢志摩地域は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡（4町）の7市町からなり、そのうち、ほぼ全域で野生鳥獣による被害が発生しており、平成24年度における被害金額は約2億円に及んでいます。

伊勢市においても、サル、シカ、イノシシの被害が発生しており、天然記念物の蓮台寺柿の産地でもある宮本地区では、サルによる農作物の被害や家庭菜園の被害が増加しています。そこで、この地区において地域ぐるみの獣害対策を進めています。

なかでも、旭町では農家を中心としたグループで追払いや捕獲を行っています。追払いには非農家のメンバーの協力も得ており、捕獲においては自ら狩猟免許を取得して、自ら捕獲を実施しています。

また、農地だけでなく近隣の住宅や団地などにもサルが出没するため、小学校や幼稚園との連絡体制を構築して、子どもたちに被害が及ばないように活動しています。

〔具体的な取組内容〕

町内の柿園にて、イノシシ・サル対策の防護柵の実証圃設置及び検証を実施しています。

市の檻を活用してサル・イノシシの捕獲を実施しており、サルに発信器を取り付けて、追払いの取組みに活用しています。

住民自らが害獣追払い隊を構成し、サルの行動域情報を共有しながら追払いを実施した結果、旭町へ寄り付かなくなりました。そして、他町の農家とも連携してサル情報を共有しています。

獣の通り道だったヤブの刈払い等を行い、地域の環境改善にも取り組んでいます。



サル・イノシシ対策の実証圃を設置しました。この日は、ケーブルテレビの取材がありました。

柵は設置後の管理が大切ですが、管理に加えて、補修やカメラによる状況確認も実施していただいています。

住民自らで、サルの通り道となっていたヤブを刈り払いました。

ゴミの投棄もあった場所ですが、きれいになったことにより、地域の環境改善にもつながっています。

